

SAP ERP標準保守終了への戦略的対応

DX推進に向けた構想策定支援

デジタル化とSAP ERPの標準保守終了への対応が喫緊の課題となっている企業に対して、従来の目的である業務標準化・効率化に加え、事業戦略・デジタル戦略の実現を視野に入れたシンプルなERP導入を実現するための構想立案を支援します。

シンプルなERP導入が攻めのDXを実現する

SAP ERPの標準保守終了への対応として、多くのSAPユーザー企業が、バージョンアップ（現行業務重視）、またはSAP S/4 HANAの新規導入（業務改革前提）を検討していると想定されます。しかし、IT・SAPエンジニアの人材不足、1~3年は必要となる導入期間、および経営層からのデジタルトランスフォーメーション（DX）の要請を併せて考慮すると、この機会を業務とシステムの革新のチャンスと捉えて、あるべき姿を前提とした構想立案に着手することが望まれます。

事業の統廃合や、グループ会社・グローバル子会社への展開の際のスピードアップ、コスト削減やレジリエンス能力の向上を実現するためには、ERPをシンプルに導入することが有効な手段となります。

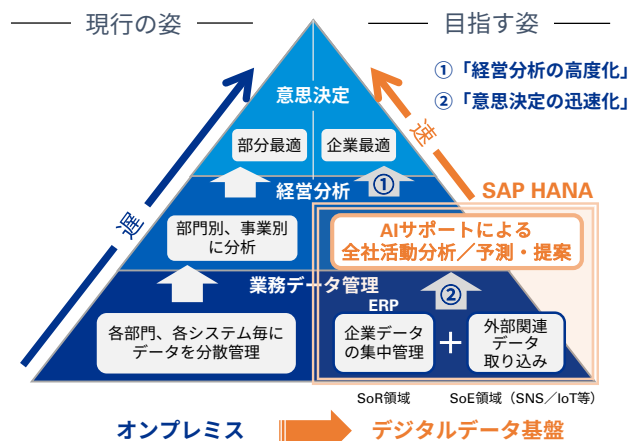
シンプルなERPの導入により、まずデータの標準化・構造化および、アドオンの最小化を実現し、ビジネスで有効活用できるデータ基盤を作ることが重要です。さらにAIなどの新技術を活用することで、ビジネスの新たな価値を創出し、DXの実現が可能となります。

シンプルなERPがデジタルデータ基盤の中核を担う

シンプルなERPとポイントソリューションの組合せによる基幹システムの構成イメージ



データ活用による企業競争力強化のためのデジタルデータ基盤のイメージ



企業の競争力を最大化するためには、顧客やマーケットの変化をリアルタイムに捉え、顧客の価値体験の向上を長期に渡って実現する施策を、いかに早く、繰り返し実行していくかがポイントになります。そこで求められるのは、ERPその他の基幹システムや設備のセンサーデータ等の企業データと、SNSや顧客が使用中の製品の稼働データなどを含めた、デジタル技術を活用した「経営分析の高度化」と「意思決定の迅速化」への取り組みです。

特に、ERPは全社で統一された企業データのソースであることから、デジタルデータ基盤の中心的役割を担います。基幹システムが保有しているデータにSNS等の外部データを組み合わせることで、新たなビジネス価値の創造につなげることができます。データを標準化し、アドオン開発を極力とどめたシンプルなERPの導入が、戦略的取組みのスタートとなります。

KPMGの支援サービス内容

KPMGではグローバルで共有している様々な方法論や業務標準モデル (Target Operating Model)、各種ツール等のナレッジを、ステップ毎に適切に活用することで効率的に最適解を導き出し、ERP標準保守終了への対応だけでなく、デジタル変革を含めた課題解決と構想立案を支援します。

1. 現状診断

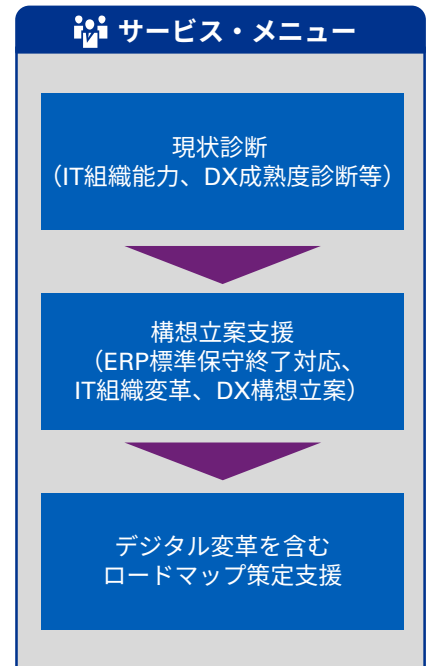
グローバルでの業界標準であるITILやCMMI等をベースにしたIT成熟度診断、業界標準モデルを用いた現行業務の課題抽出、KPMGのグローバル方法論であるConnected Enterpriseを用いたデジタル成熟度診断等を実施します。

2. 構想立案支援

KPMGのグローバル方法論であるPowered Enterprise ERP導入方法論を用い、適用するERPに応じて、あるべきビジネスモデルを視野にいたった構想立案を支援します。ここでは、IT組織変革、グローバルデジタル方法論を用いたデジタル変革 (DX) の方向性策定も支援します。

3. デジタル変革を含むロードマップ策定支援

上記の構想を実現するための、方針、ステップ、成功要因などを含めたロードマップの策定を支援します。また、実行にあたって制約となる、SAPエンジニアの不足、DX人材の育成、アジャイルへの対応、内製化推進などのIT部門が抱える課題への対応も支援します。



KPMGのツールと方法論

業界標準であるITIL/CMMI等によるIT成熟度診断

IT成熟度診断レベル

Level 5: 継続的改善 (Continuously Improving)
 Level 4: 定量的管理 (Quantitatively Controlled)
 Level 3: 制御された状態 (Well-Defined)
 Level 2: 計画と確認 (Planned & Checked)
 Level 1: 初期 (Initial)
 Level 0: 不在 (Absent)

特徴: 現実的で意図的な目標だが、自然発生の状態でも定期的に同じ課題に直面する。改善のペースが速くなる。多くのIT組織に発見される状態に達する。

Connected Enterprise / Powered Methodによる変革支援

Powered EnterpriseによるERP導入方法論

Traditional implementation: Start-up → Design → Build → Test → Transition

KPMG Powered Enterprise implementation: Vision → Validate → Construct → Deploy → Time savings

特徴: Define your path forward (See the future, today), Demystify technical build (Ease into deployment with change adoption)

業界毎のグローバル先進事例

業務プロセス、テクノロジー、ガバナンス、組織、情報管理、デリバリーモデル

Connected Enterpriseによるデジタル成熟度診断

グローバルデジタル変革方法論

*図表はすべてイメージです

KPMGコンサルティング株式会社

T: 03-3548-5111

E: kc@jp.kpmg.com

home.kpmg/jp/kc

SAP、SAP HANA、SAP S/4HANAは、ドイツおよびその他の国々におけるSAP SEの商標または登録商標です。その他の会社名、製品名、サービス名は、それぞれの企業の商標もしくは登録商標です。

本リーフレットで紹介するサービスは、公認会計士法、独立性規則及び利益相反等の観点から、提供できる企業や提供できる業務の範囲等に一定の制限がかかる場合があります。詳しくはKPMGコンサルティング株式会社までお問い合わせください。

ここに記載されている情報はあくまで一般的なものであり、特定の個人や組織が置かれている状況に対応するものではありません。私たちは、的確な情報をタイムリーに提供できるよう努めておりますが、情報を受け取られた時点及びそれ以降においての正確さは保証の限りではありません。何らかの行動を取られる場合は、ここにある情報のみを根拠とせず、プロフェッショナルが特定の状況を綿密に調査した上で提案する適切なアドバイスをもとにご判断ください。

© 2020 KPMG Consulting Co., Ltd., a company established under the Japan Company Law and a member firm of the KPMG network of independent member firms affiliated with KPMG International Cooperative ("KPMG International"), a Swiss entity. All rights reserved. 20-5033

The KPMG name and logo are registered trademarks or trademarks of KPMG International.